

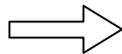
## 古文書を読む

甲府東高校の2年生は、学習指導要領の項目の一つである「資料をよむ」にもとづき、「古文書をよむ」授業を実施した。この授業の講師として高橋修学芸員をお願いした。

事前 教科書に記載されている「資料をよむ」などのコラムを通して「古文書とはどのようなものか」ということを知り、また、「歴史は、古文書などの資料に基づいて叙述されている」ことを学んだ。

当日の流れ

講師の紹介



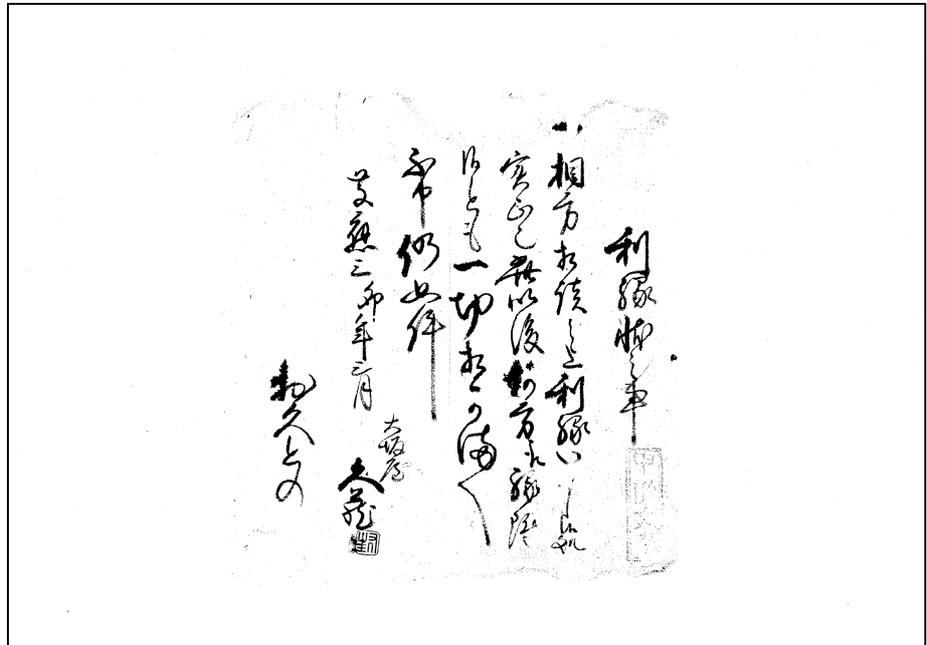
講師の説明

- ・ くずし字解読辞典・古文書解読辞典のひき方
- ・ 文脈から読み解く方法



古文書を全員で声に出してよむ

慶応二年の離縁状



活用した資料

事後

離縁状について、事後学習（離縁状の性格、甲斐国ではなぜ離縁状が多いのか、など）をおこなった。また、出前授業に関するアンケートをとった。生徒の感想は「古文書をこうやって読んでいくんだな、と知ることができ、よかった」「古文書は、読むだけでなく、その時代の人々の生活や考えを読みとることができ、とても興味深いと思った」といった感想を残しており、好評であった。

一言

高校では、小中学校とはまた異なったかたちでの博物館へのアプローチの仕方があるはずである。また高校生の古文書に対する関心はわれわれ教員の予想以上であった。機会を見つけてこのような授業を実施していきたい。  
(甲府東高校 古明地 隆)